

三和次郎右衛門尉殿

〔秋鹿文書〕奉寄遠江國府八幡宮

當國羽鳥庄内貴平郷地頭職事

右爲天下太平家門繁昌令奉寄之狀如件、

建武四年十二月廿二日

〔東寺百合文書一ノ三〕遠江國村櫛庄役最勝光院寺用事真鑑法印申狀副具書如此にて可致其沙汰之由可致下知行之旨被仰下候也恐々謹言、

九月六日

德大寺中納言殿

〔東寺百合文書一ノ五〕山城

最勝光院領遠江國村櫛庄本家米事深源僧都申狀副具書如此子細見狀候歟可被仰武家之由院御氣色所候也以此旨可令申給仍言上如件雅仲誠恐頓首謹言、

九月十六日

進上前左馬助殿

〔鎌倉大草紙〕扱京公方は普光院殿御時なりいかゝ思召けん信長に先遠江國蒲の庄御厨にて千貫の地を懸命のためにたまはりける、

〔集古文書三十九〕應永三十三年施行狀京師清和院藏

遠江國質呂莊領家職半分事任去年八月十一日奉寄御判之旨彌可被全所務之由所被仰下也仍執達如件、

應永三十三年十一月十八日

源朝臣利花押○足利尊氏足

隆蔭

大藏卿雅仲

沙彌花押